

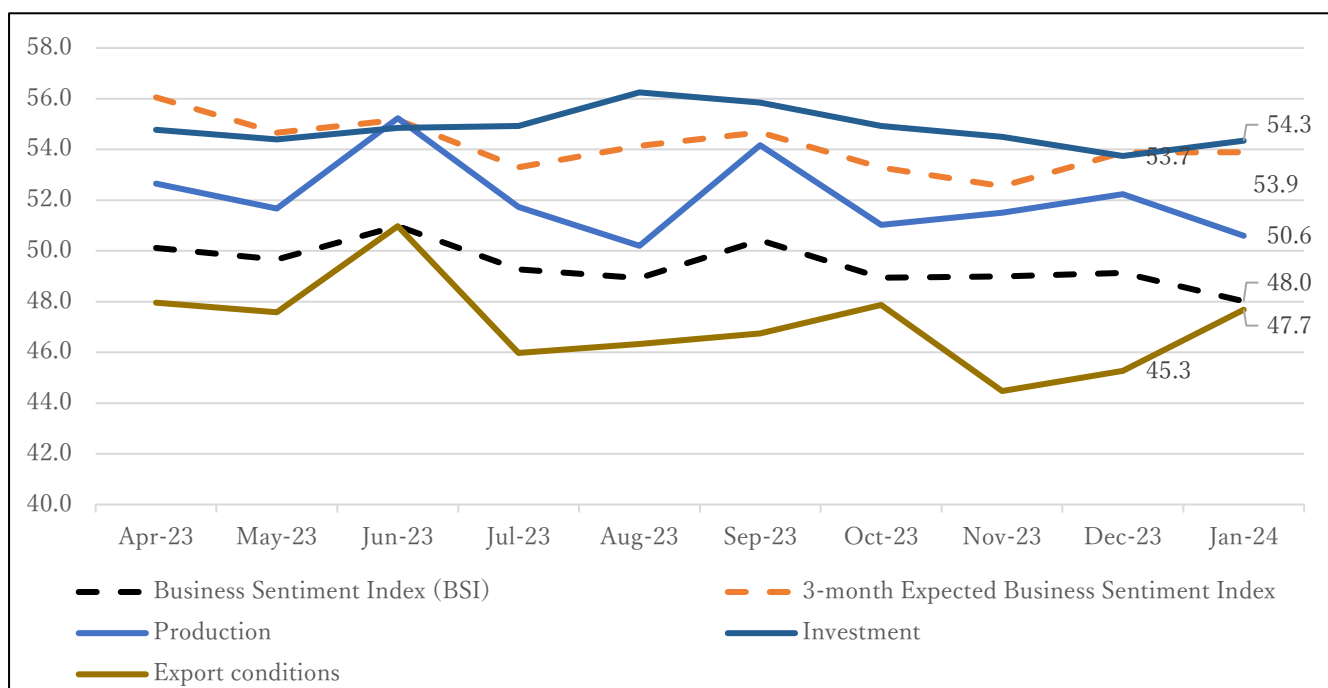
タイ経済指標斜め読み

(2024年2月版)

ビジネスサポート部
加藤義人
kato@mat.co.th

1. 【データ：投資家指数】

タイ中央銀行（BOT）は、2024年1月のビジネス景況感（BSI）を発表した。（50＝前月と変動なし）

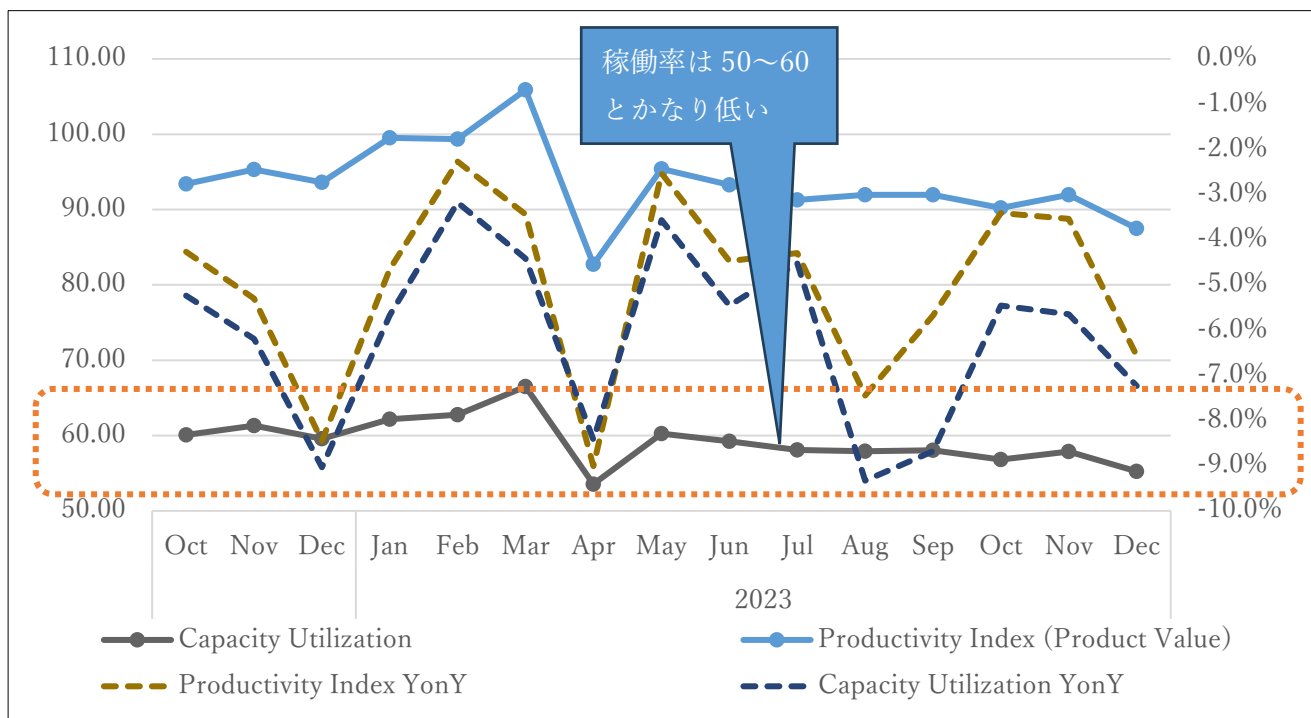


1月のBSIは48.0（前月：49.1）、三ヶ月後の期待値は53.9（前月：53.9）となり、前月から回復とはならなかった。一方、輸出は47.7（前月：45.3）、投資は54.3（前月：53.7）となった。特に輸出が2ポイント以上上昇し、回復傾向にはあるが、紅海付近での紛争の影響で船賃が高騰しており、輸出を取りやめる企業もあるという。依然として、先行きが不透明な状況が続いている。

出所：<https://www.bot.or.th>

2. 【データ：産業指数】

タイ工業省傘下工業経済事務局(OIE)は、12月の工業生産指数(MPI)と稼働率(CU)を発表した。(2016年=100)

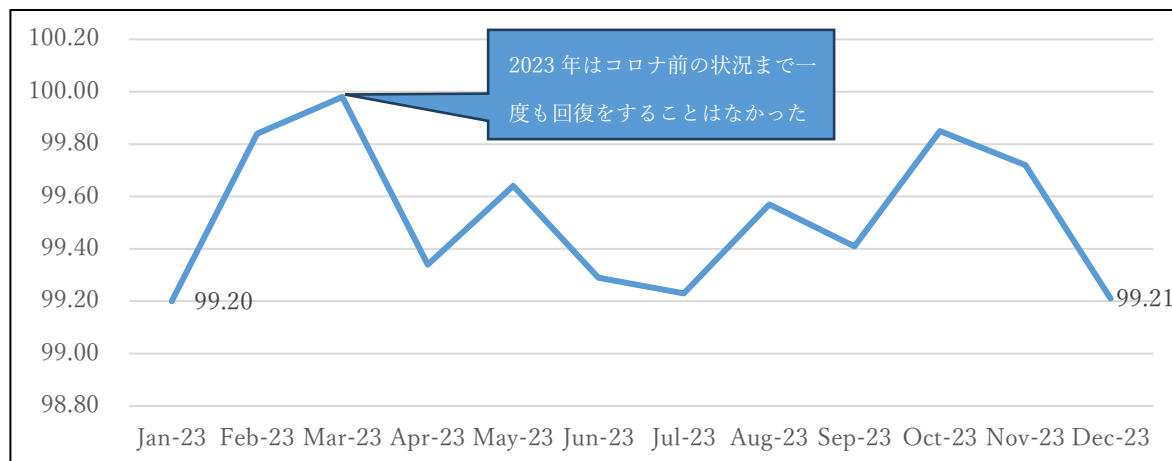


12月のMPIは、87.48ポイントとなり、前年同月比-6.6%、設備稼働率は55.25、前年同月比-7.2%とソクラン休暇があった4月以来の低水準となった。同月はクリスマスなどの年末休暇があったため、生産や稼働率が低下する季節的な要因だが、2016年の基準値である100を下回っていることが見て取れる。さらに言うと、設備稼働率が60ポイント付近を行ったり来たりと、生産コスト高や輸出減だけとは言えない低さを継続していることが気になる。タイ製造業の更なる発展に必要なのは、設備稼働率の引き上げなのではないかと考えるところです。ちなみに2018年3月に記録した75.7ポイントがデータベース上での最高値となっている。

出所：<https://www.oic.go.th/>

3. 【統計：景気指数】

タイ中央銀行(BOT)は、2023年12月に於ける、Coincident Economic Index(一致経済指数)を発表した。(2019年=100)



一致経済指数は、GDPや民間投資指数、民間消費指数、輸出入指数などを用いて総合的に景気状況を判断する指標となる。12月の同指数は99.21となり、年初に記録した99.20に次ぐ悪い傾向を示した。一年を通して、2019年の指標を上回ることがなかった。要因として、政府の景気刺激策などがある一定の効果を出してはいるが、原油高、輸出減、国内消費の低迷、家計負債の悪化、クリスマス長期休暇による稼働率低下などで、指数が改善する要因に事欠いた状況となった。

出所：<https://bot.or.th/>

筆者紹介：2001年にタイ日系IT企業の責任者として赴任後、バンコク日本人商工会議所、タイ邦銀支店関連子会社などで企業・経済調査などを経験し2018年MAT社に入社、現在に至る。アメリカ、香港、ミャンマー、タイなど海外在住歴は30年以上。

2023 Material Automation (Thailand) Co., Ltd. All Rights Reserved.

本データは情報提供を目的として作成されたものであり、営利を目的としたものではありません。作成時点で、MAT社ビジネスサポート部が信ずるに足ると判断した政府が発表するデータに基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。掲載内容は毎月変更されます。報道目的以外での引用・転載については当社までお問い合わせください。